

住まいの空きスペース活用WS

ニュース Vol.1

平成 23 年 11 月発行（西宮市住宅政策グループ）

平成 23 年 10 月 24 日に第 1 回「住まいの空きスペース活用ワークショップ」を開催しました。

この活動は、昨年度改定致しました「西宮市住宅マスタープラン」で掲げたいくつかの目標を実現するための第一歩として、以下の目的を持ってスタートしました。



・当日の様子（岩井グループ長挨拶）

住まいの空きスペース活用ワークショップの目的

『住まいの空きスペースを活用した

- A** : 『みんながいきいき暮らし、安心して子育てできる身近な集い場 **まちの縁側**』づくり や
- B** : 『コミュニケーションを促す仕組みを持つ、多様な住まい方（シェア住居、グループホーム等）を可能にする住まい **現代版長屋**』づくり』

を推進・実現するため「現状を知り、何が課題で、どういったことが必要か」また、「それらをどう協力・連携し進めていくべきか」を考える。

ワークショップとは、地域に関わる諸問題の解決や各種活動の方針や推進を図るために、様々な立場の参加者が共同作業を通じて、課題発見や創造的な解決策、計画案の考案・それらの評価などを行なっていく活動のことです。

住まいの空きスペース活用ワークショップのメンバー構成

メンバー構成については、関連するNPO等の市民団体や大学、不動産事業者、行政担当課から選出し、目的の2大項目についてワークショップを進めていくため、上記A「まちの縁側づくり」について考える「**集い場グループ**」とB「現代版長屋づくり」について考える「**シェア住居グループ**」の2つのグループ構成としています。

ワークショップメンバーの構成

所 属	人数	グループ
市民や市民団体	2名	共に集い場G
子育てサークル	1名	集い場G
介護福祉関係NPO	2名	集い場G、シェア住居G
マンション管理組合支援NPO	1名	シェア住居G
金融機関	1名	集い場G
学識経験者（武庫川女子大学）	1名	シェア住居G
大学院生	1名	シェア住居G
不動産事業者	2名	集い場G、シェア住居G
UR都市機構	1名	シェア住居G
西宮市社会福祉協議会	1名	集い場G
西宮市高齢福祉グループ	1名	集い場G



【第1回】テーマ：現状を確認し、目指すべき理想像を考え・共有しよう



1 ワークショップの概要

- ・日時：平成23年10月24日(月) 午前9:30～12:00
- ・場所：西宮市 市民会館(アミティホール)1階 大会議室
- ・参加人数：14名(集い場グループ8名、シェア住居グループ6名)
- ・「西宮市の住まいの現状を確認し、目指すべき住まいの空きスペース活用の理想像を考え・共有する」ことをテーマに、参加者それぞれの立場から日常生活や日常業務、支援活動等の中で感じる以下の内容について意見を出し合い、それを基に、住まいの空きスペース活用の理想像を考えました。

当日のプログラム

1. 開会(岩井グループ長挨拶)
2. 本ワークショップの目的
3. 全体プログラム(全4回)の概要説明
4. 関連現況データと既存の取組み紹介(別紙参照)
5. ワークショップ(100分)
6. 各グループ発表(20分)
7. 今日の総括と次回のご案内
8. 閉会

意見出しの視点

集い場グループ： どんな集い場があればよいと思うか、その集まりの目的や規模・性質について、また、それらがどういった場所に必要か等、意見を出し合う

シェア住居グループ： どういった人達にシェア住居やグループホームが求められそうで、どういった居住空間や居住地環境等に魅力を感じそうか、また、それらが どういった場所に必要か等、意見を出し合う

出た意見を基に

西宮市における「住まいの空きスペース活用」の理想像を考える

2 グループワークの結果

集い場グループ



意見出し： 集い場グループでは、以下のような多様な意見が出されました。

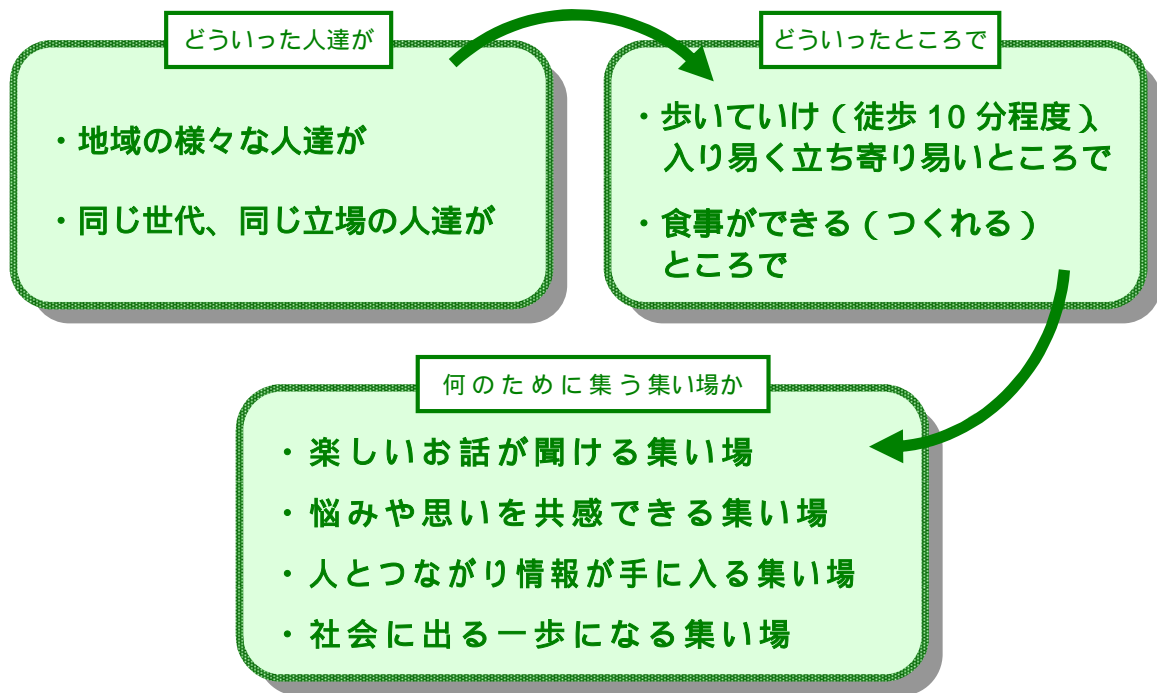
視点	意見のカテゴリ	どんな集い場があれば良いと思うか、その集まりの規模や性質について
集まりの目的	時間と話題を共有しふれあう	時間・話題の共有
		ふれあいの場所(好きな内容の会合)
	目的は最初からあまりつくない	継続がその「集い場」の色をつくる 目的とか立場とかを限定しない(一方そこで働く方には目的が必要)
集まりの規模・性質	集まりの規模	名前は覚えられなくても顔は覚えられる人数規模
		30人くらいの規模の集い場
		すごく狭い集い場から始め、少し大きめ、大規模へ
		集まりの規模は自治会よりも小さく(例えば街区単位等)
	町会単位で人が集まり近所付き合いできる程度の規模	
集まりの性質	様々な集い場がある。深夜も含めた時間帯ごとに多様な集い場があっても良い スタッフと利用者の垣根がない集い場が良い	

視点	意見のカテゴリ	どんな集い場があれば良いと思うか、その集まりの規模や性質について(続き)
集い場の空間	気軽に集まれる空間	いつでも開いていて、いつでもいける集い場
		近所の人が気軽に立ち寄れる場
		気軽に入り易い場
		外から中の様子が見える集い場
		中で何をしているか分かり、通りすがりに立ち寄れる集い場
		集い場に呼び込む看板があったら良い
		ある程度の決まりはあるが、誰でも使えるよう気にならない程度にする
	食事ができる空間	食事ができる空間
		持込でお昼を一緒に頂けるところ
		“食べる”ことの大切さ(持ち寄り等) リラックスにもつながり本音も言える
	木による癒し空間	木造の木のいやし効果の感じられる集い場
	高齢者の集い場	様々な趣味、興味を持つ高齢者がその趣味や興味の話ができ、体験できるサポーターのいる集い場
		お年寄りの方が子供たちと時間を過ごすことのできる空間・場所
		子供と高齢者が世代を越えて集える場
	母親の集い場	母親同士の助け合いの場(ちょい子供預け等)
		婦人会等のグループや団体に所属してなくても集える場(気軽な井戸端会議のできる場)
		働くママ等の集える場
	子供の集い場	子供が安心して居れる安全な場所
		放課後、中学生や高校生が健全に集える場(公園でたむろしていると通報される時代なので)
	男性の集い場	男性ならではの集い場(男性(パパ)の集い場等)
		男性も交流を持つために趣味等を通した集い場があれば良い
		一人一人がその場での役割を持つことが必要
	「地域の集い場」	様々な人達が“まじくる”関係の集い場空間(高齢者・障害者・働く人・親・子・ペット等)
		年代に関係のない集い場
		色んな年代層が交わる場
		障害を持つ方が地域・近隣と交流ができる集い場
		小規模事業所が併設された集い場(商品の常設販売ブースの設置等)
ペットを持つ人達との気軽な交流の場(ペット嫌いの人達とも上手に共生できるように)		
既存の小グループ(お友達)が集えるところ(子育てママ等)		
地域全体の活動拠点として集える場		
別々の集い場グループが集える場も良い		
その他	情報収集できる集い場	各分野の行政支援等の情報や地域情報を知ることができる場
		介護保険の営利目的の業者などの情報が地域なら入り易い
		色んな立場の人達がまじくることで今の情報が集まっている(つどい場さくらちゃん)
	集い場情報の発信	集い場関係の情報紙等、集い場の情報発信が必要
		集い場情報についてラジオ(さくらFM等)で情報発信して欲しい(市から働きかけて欲しい)

視点	意見のカテゴリ	どういった場所に集い場が必要か、またどの地域にどういった集い場を求める需要がありそうか
どういった場所に必要か	場所	商店街
		公民館の近く（人がよく通る場所に）
		歩いていける身近な場所
	必要数量	コンビニの数ほどの集い場が必要
集い場の需要や空家情報等	課題	賃貸マンションはつながりを求めない住人が多いので展開が難しい
	既存集い場情報	男性介護者の集い場（例えば「咲々館（さくさくかん）」）
	集い場開設の相談情報	生瀬地区で自宅を開放して集い場にしたいとの相談があった



住まいの空きスペース活用の「理想像」：出された多様な意見を基に西宮市における住まいの空きスペース活用の理想像を考えました。
（集い場グループ）



集い場グループの検討の様子



シェア住居グループ



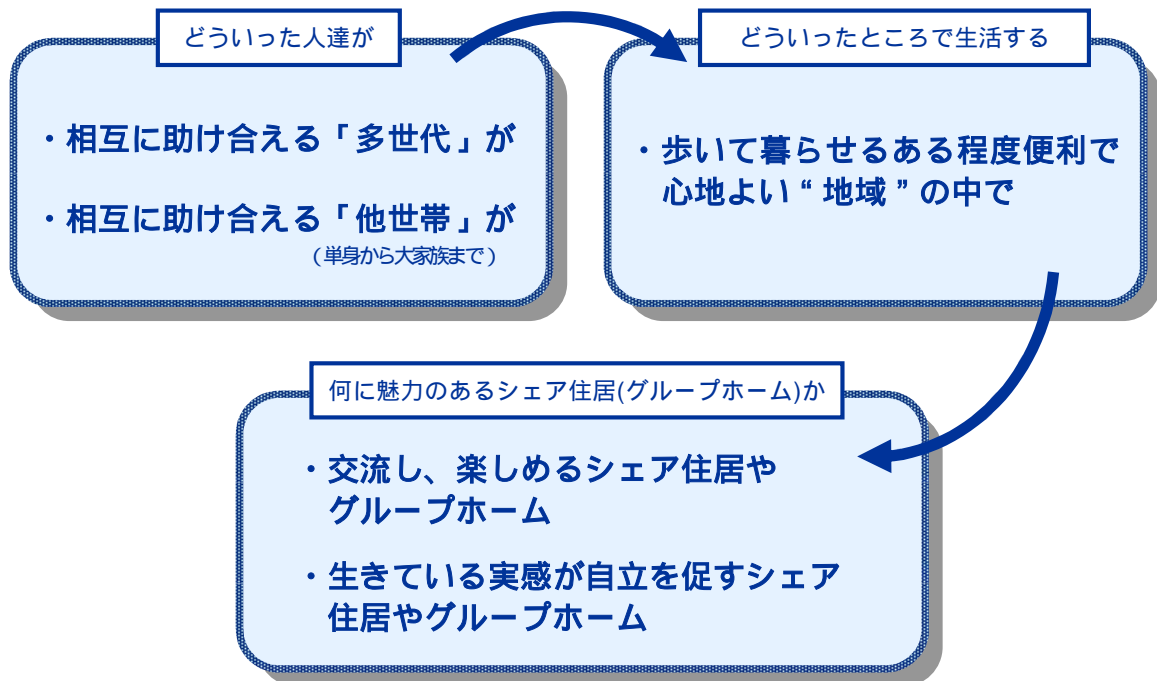
意見出し：シェア住居グループでは、以下のような多様な意見が出されました。

視点	意見の カテゴリ	どういった人達にシェア住居やグループホームが求められそうで、どういった居住空間や居住地環境に魅力を感じそうか
シェア住居 やグループ ホームが求 められそう な対象(人)	高齢者	完全な自立ができない高齢者
		単身の高齢者
	障害者等	障害者（障害児の数も増えている）
		社会経験の少ない人（引きこもり含め）
	シングルの 女性	シングルマザー
		働くシングルマザー
		これから一人暮らしになっていく女性（60歳くらいからの）
学生	学生	
	大学に通う外国人留学生	
ミックス	相互に助け合える関係の人達（例えば 高齢者 シングルマザー）	
	” （例えば 高齢者 子育て世帯）	
	” （例えば 65歳以上 15歳まで）	
	相互にメリットがある人達（例えば 情報交換のメリット、楽しみを共有するメリット等）	
シェア住居 やグループ ホームとし て魅力のある 居住空間	居住者の 共有スペース について	テレビのない広いリビング
		居住者との交流が生まれやすい広いリビングと明るい庭と工作部屋 等
		読書や自習ができる柔らかくつながった共有の空間
		女子会がはずみそうな共有スペースと設備がある空間
	地域との 関係を持てる スペース	第三者（地域の方）が出入できる共有のスペース
		シェアハウスに住む若い世代と地域とのつながりを持てるスペース（貸し農園等）
	安全な 居住空間	安全の保てる住空間と設備
安全すぎない空間（実情に合った柔軟な安全の考え方（消防法の柔軟な考え方））		
物のシェア	車や自転車、電化製品等の物のシェアもできるシェア住居	
シェア住居 やグループ ホームとし て魅力のある 居住地環境	利便性	自然の残った比較的利便の良いところ
		公共施設や病院、日頃の買い物に便利なところ
	他世帯の交流	高齢者と子育て世帯の交流がある環境
	地域との交流	外国人留学生を含めた大学生等の自治会等、地域活動への参画がある環境
		シェア住居の住人も地域側も喜べる環境
その他 (ソフト面の 魅力)	地域と繋がり 交流がある 魅力	地元の商店街、神社等の地域のイベントを通して交流できる仕組み
		シェア住居の住人を地域とつなぐ「案内人的な人」が必要
		何らかの“地域の仕事”をまかせることによる地域とのコミュニケーションの向上
		シェア住居仕様のプランでなくとも既存住宅のグループ化によるシェア住居もありでは？ （一日の中で過ごす場所を何住戸が決め、行き来する等 見守りにもつながる）
	ネット活用	インターネットを活用した情報の集約・共有による様々なコミュニケーション
課題	シェア住居は中の自治が難しい	

視点	意見の カテゴリ	どういった場所にシェア住居やグループホームが必要か、また、どの地域に どういったシェア住居やグループホームを求める需要がありそうか
どういった 場所に必 要か	問題があり、活 性化したい意思 のある所	高齢化や空家化が進む地域（団地等）に若手を呼び込むシェア住居が必要
		空家が問題になっている地域（団地等）
	条件	地域が受け入れてくれる所（地域と交流していける所）
	課題	北部では車利用が基本になるので移動手段の確保が必要



住まいの空きスペース活用の「理想像」：出された多様な意見を基に西宮市における住まいの空きスペース活用の理想像を考えました。
(シェア住居グループ)



シェア住居グループの検討の様子



